



# 式 次 第

## 記念式典

開 式		
開 設 者 挨 拶	出水市長	椎木 伸一
式 辞	出水市病院事業管理者	鮫島 幸二
祝 辞	鹿児島大学病院 副病院長	石塚 賢治
	熊本大学病院 病院長	平井 俊範
	福岡大学病院 病院長	三浦 伸一郎
	衆議院議員	野間 健
	参議院議員	野村 哲郎 (欠席)
	鹿児島県知事	塩田 康一
来 賓 者 紹 介		
院長挨拶・病院の歩み	出水総合医療センター院長	花田 法久
祝 電 披 露		
閉 式		

## 記念祝賀会

和 太 鼓 演 奏		和太鼓集団 和楽
挨 拶 ・ 乾 杯	出水市副市長	冨田 忍
医 師 紹 介		
創立100周年記念動画上映		
万 歳 三 唱	出水総合医療センター副院長	藤田 浩

## 開設者挨拶



出水市長 椎木 伸一

本日ここに、多くの皆様の御臨席を賜り、出水総合医療センター創立100周年の記念式典を挙げる運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。

出水市病院事業の開設者として、一言、御挨拶申し上げます。

まず、100年という歴史は、大正に始まり、昭和の戦争・終戦・高度成長、平成のバブル期、その後の不景気、情報化社会の発展、そして令和という4つの時代があり、この激動の時代をとおり、「命を守る」というただ1つの使命を脈々と受け継ぎ今日を迎えることができましたことは皆様のお陰と感謝いたします。

また、医療センターを利用されている市民の皆様をはじめ、医師を派遣していただいている鹿児島大学、熊本大学、福岡大学の各医学部医局の皆様、地元で御支援くださっている出水郡医師会の先生方、これまで病院事業に携わってこられた関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

ここで、病院事業の歩みを振り返りますと、大正14年の創立当初は「米ノ津医院」として内科、外科の2科で発足しましたが、昭和29年の市制施行により「出水市立病院」に改称し、平成18年3月には市町合併に伴い「出水総合医療センター」に改称するなどの変遷を経て、現在では、病床数261床、診療科25科を擁する中核的医療機関となっていますが、この間、幾多の試練を乗り越えながら、皆様の健康と命を守ってまいりました。

また、平成9年に発生した針原土石流災害の救助活動、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の予防や治療への積極的な対応、身近では、多くの救急患者の受入れなど、市民の皆様はもとより、出水保健医療圏内の皆様の命を守る拠点としてこれまで大きな役割を果たしてまいりました。

現在も、「私たちは良質な医療を提供し、市民に信頼される病院を目指します」の医療センターの基本理念に基づき、一般医療、救急医療、小児医療及び災害医療など、市民の皆様が求める医療を提供しています。

今後、医療現場を取り巻く環境は、医師をはじめとした医療スタッフ不足、人口減少問題、高齢化率の進展等、様々な課題が山積しています。このように、ますます複雑・多様化する課題や医療需要に応えるため、医療機関と行政とが一体となって課題解決に取り組む必要があります。

その中で出水総合医療センターは、市民の皆様をはじめ圏域内の住民の健康と福祉を支える中心的存在であり続けるため、出水保健医療圏内の拠点医療機関として急性期医療や在宅医療の支援などを行うとともに、地域の医療機関・介護施設等との連携を図り、地域包括ケアシステムの一端も担ってまいります。

皆様の命を守り、皆様がこの地域で安心して暮らし続けられるために、出水総合医療センターの機能をより一層、充実させるとともに、存在意義や将来像を踏まえ、経営基盤の強化に取り組み、引き続き皆様の命を守る拠点としての役割を行政と一体となって果たしてまいりたいと考えています。

関係各位の皆様には、今後も一層の御支援・御協力を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。感謝と御礼の御挨拶とさせていただきます。

## 式辞

出水市病院事業  
管理者 鮫島 幸二



本日は御多忙の中、皆様の御臨席の下、出水総合医療センターの創立100周年記念式典を挙げる運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。

当院は、大正14年3月に米ノ津町立米ノ津医院として開業以来100年の節目を迎えることとなりました。

小さな医院としてスタートし、多くの医療スタッフが一貫して出水市民の健康を守るために日夜努力し、情熱をもって奮闘してきたことが今日の出水総合医療センターにつながっていることを、私たちは忘れることはありません。

さらに、今日の出水総合医療センターがあるのは、ひとえに御臨席の皆様方、並びに市民の皆様、出水郡医師会の先生方、鹿児島大学、熊本大学、福岡大学医局の皆様の御支援があつてのことであり、改めて心より感謝申し上げます。

開設当時の病院の様子を知る由もありませんが、十分な医療器具や薬剤などがなく、交通事情も今とははるかに悪い状況で大変な御苦労があつたものと想像いたします。

ただ、近年出水でも夏日には35度以上の気温になることも珍しくなくなりましたが、当時の出水平野は田園が広がり、清涼な風が吹いて過ごしやすい気候だったのではと思いを馳せております。

さて、医療に目を向けますと、この100年で医療技術も医療機器も医薬品も大きな発展を遂げております。

当院も時代に合わせて施設の増改築を重ね、医療器具も技術の進歩に合わせて拡充しながら出水市民の健康増進に寄与してまいりました。

そして平成4年には自治大臣から自治体優良病院として表彰を受ける栄誉に輝きました。

しかしながら、近年は医療を取り巻く環境が年々厳しさを増してまいりました。

当院もこの流れに飲み込まれるように経営危機を経験しましたが、全職員の努力により今日を迎えております。

これからも予断無くきめ細かな病院運営を行い、出水市民の健康を守るために、病院スタッフ一丸となって時代に沿った医療を提供し、さらには10年、20年、30年後を見据えた戦略を考えながら努力してまいります。

御来場の皆さま方には改めて感謝申し上げるとともに、これからも末永く当医療センターを見守っていただき、支えとなっていただくことを切にお願い申し上げ、式辞といたします。

## 祝辞

鹿児島県知事 塩田 康一



皆様、こんばんは。本日、出水総合医療センターの創立100周年記念式典及び祝賀会が、関係者の皆様の下盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

出水総合医療センターは、先ほど御紹介ありましたが大正14年に前身である米ノ津町立米ノ津医院として開設され、その後、平成18年に現在の出水総合医療センターと名称を変更されております。地域医療支援病院、県がん診療指定病院、災害拠点病院をはじめとする各種の重要機能を担い、100年という長きに渡り地域における中核病院として、地域住民の保健、医療、福祉の向上のために、大きな役割を果たしてまいりました。これもひとえに、鮫島事業管理者や花田院長、椎木市長そして本日御出席の医療関係の皆様方をはじめとした、関係の皆様方の多大な御尽力のたまものであると思います。皆様方のこれまでの取組に深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

高齢化に加え、離島・へき地を多く有している本県においては、これから高齢者人口がピークを迎えて減少に転じることを視野に入れつつ、中長期的な課題について整理した上で、対応していく必要があります。こうした状況を踏まえ、昨年、第8次鹿児島県保健医療計画を策定いたしました。この計画では、生活習慣病等の発症・重症化の予防、医師・看護師など医療従事者の確保、医療連携体制の整備などを推進するとともに、地域包括ケア体制の整備充実や、病床の規模分化・連携の推進などの施策を推進することとしております。人材確保の困難や物価高騰など、医療を取り巻く環境は厳しい状況にあると考えております。

このような状況を踏まえまして、県としましては物価高騰が続く中で、公定価格で運営を行っている医療機関への支援を行うこととしております。また、関係の皆様方の御協力などをいただき、医師就学資金を貸し付けていくことによりまして、本県の地域医療を担う医師・看護師の合格と育成に努めてまいることとしております。今後とも誰もが安心して、必要な医療を受けられる地域作りに精力的に取り組んでまいります。引き続き皆様方のより一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

創立100周年を契機として、出水総合医療センターが今度ますます発展されますことと、本日御出席の皆様方の御多祥御活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

## 祝辞

衆議院議員 野間 健



皆様、こんばんは。御紹介いただきました、地元の鹿児島三区の衆議院議員野間健と申します。本日は、大正14年に創立された、当時は町立の米ノ津医院、現在の医療センターでありますけれども、その100周年の本当に良き日にお招きをいただきましたことを心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。今、るるお話がありましたように、大正から戦前、戦中、戦後、本当にこの激動の大変な時代、今日も今お話しがあった鮫島先生また花田院長先生をはじめ、歴代の院長の先生や医師の皆様、看護師の皆様、関係者の皆様、職員の皆様、そして地域住民の皆様の大変な汗と涙、さまざまな喜び悲しみが詰まったこの100年間だったと思います。心から感謝と敬意を表したいと思います。お疲れ様でした。

皆さんも今、御承知のとおり、国会では高額療養費の予算をどうしていくのかということで、連日議論をしているところであります。これは本当に行き着くところ、医は仁術なのか、医は算術なのか、この問題に帰着していくということなんですけれども、先ほど鮫島先生のお話もありました。私たちも、全国のいろんなデータを見させていただくんですけれども、全国の病院で黒字のところを探すのが難しいということで、新型コロナ以降、非常に経営が厳しくなっているのが事実だと思います。ですから、そのために、この算術の面をきちんとしていけないといけない。だけれども、やはり皆さんの命を守る、その使命を果たすのが国であり、政治の役割だと思います。今、いろんな議論はありますけれども、私どもはこういった問題は単に医療の関係者の皆さんに丸投げするとかそういう問題ではないと思います。やはり政治が責任を持って果たせるように、地域の皆さんが安心して暮らせるようにするのが政治の役割だと思います。ですから、仁術を主として、しかし算術をしっかり和確立をさせながら、地域の医療を守っていくというのが政治の役割だと思います。私どもはまた皆さんの御指導をいただいて、日本の地域のために、その医療のために、皆さんの命と健康のために、全力で頑張ってまいりますことをお誓い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございました。

## 祝辞

鹿児島大学病院  
病院長 石塚 賢治  
(当時副病院長)



皆様、こんばんは。鹿児島大学病院の石塚でございます。早春の候、本日ここに、出水総合医療センター創立100周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

まずは、これまでの100年という長い歴史を作ってこられた歴代、そして現在の関係各位の皆さまの御努力と御尽力に心より敬意を表します。先ほど椎木市長をはじめ、お話しされましたが、お聞きするところによりますと、1925年（大正14年）に米ノ津町立米ノ津医院が県内初の公立医療機関として誕生後、1954年の指定施行により出水市立病院へ、2006年の出水市・高尾野町・野田町の合併時に現在の出水総合医療センターへ改称をされたとのことあります。

病院運営に当たって、この1世紀には多くの苦難があったこととお察しいたしますが、見事にこの日をお迎えになられたことにお喜び申し上げます。近年においては、いずれの医療機関においても新型コロナウイルス感染症、医療資材の高騰、医師の働き方改革など、病院の本幹を揺るがす諸問題に直面しておりますが、それらに窮することなく対応されてきたことは、出水総合医療センターと語ろう会、市民講座の開催等の地道な活動をはじめ、病院経営強化プラン等による経営改善等、職員一丸となった努力の賜物であると推察いたします。100年もの長きにわたり、地域の中核病院として医療を提供し続けてこられたのは、行政並びに医師会の協力及び御支援とともに、病院長をはじめとする職員の皆様方のこの病院を守るという強い意志と、より一層発展させていくという大きな希望があったからこそと思います。

この一体感こそが、出水総合医療センターの基盤であり、そして今日、さらに地域に寄り添い、市民のニーズに答えるべく最高最新の治療を行うことで、出水保健医療圏の基幹病院として確実な成果を出してこられたわけです。2040年問題と言われるように、2040年には日本の総人口に占める高齢者の割合が約35%に達すると予測されております。一方、鹿児島県では人口の高齢化はこれより早く進み、出水市においては2030年には高齢化率40%に達するとお聞きしております。これまでの100年にも増して、急速に大きく変わっていくであろう時代の中で、地域の患者さんに愛され選ばれる病院、職員が生き生きと仕事ができる病院を目指して、様々な課題について職員それぞれの病院に対する強い愛情と前向きな情熱を持って、既に議論を始めておられることと思います。「良質な医療を提供し、市民に信頼される病院を目指す」という基本理念の下で、今まで培ってこられた組織力を一層強化し、次世代に継承されていかれることを切に願っております。

私事ではございますが、本年4月から鹿児島大学病院長を拝命する予定です。これまで以上に、両病院間の連携を深め、鹿児島県の医療の発展に寄与することができましたら幸甚でございます。

最後に、本日御臨席の皆様のみまますの御発展を心からお祈りいたしまして、出水総合医療センター創立100周年記念の御挨拶とさせていただきます。

## 祝辞

熊本大学病院  
病院長 平井 俊範



皆さん、こんばんは。ただいま御紹介にあずかりました、熊本大学の平井です。本日は、出水市の椎木市長、鮫島管理者、花田院長をはじめ、関係の皆様におかれましては、創立100周年という輝かしい節目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

大正14年に米ノ津町立米ノ津医院として設立されて以来、出水市立病院と改称され、その後、出水総合医療センターとして発展され、貴院は常に地域医療の最前線でその役割を果たしてこられました。この100年という長きにわたる歩みは、まさに地域医療の歴史そのものであり、多くの医療従事者の献身と地域の皆様の支えによって築かれた誇るべき軌跡です。ここで歴代の院長先生に関しまして調べましたところ、初代の院長を務められたのは山根榮興先生から始まり、現在の花田先生で12代目となるほか、熊本大学からも9名の先生方が院長を歴任され、貴院の発展に寄与してまいりました。現在も熊本大学から外科・脳神経外科・放射線科の3診療科に対して、常勤が6名、非常勤2名の医師を派遣し、貴院とともに地域医療の充実に貢献させていただいております。今年はちょうど昭和100年と言われておりますが、100年という節目は過去を振り返るとともに、新たな未来へ向かう大切な起点でもあります。貴院が今後も地域医療の中核としてさらなる発展を遂げ、より多くの人々に安心と希望を届ける存在であり続けることを心より願っております。熊本大学病院としてもこれまで以上に連携を深め、質の高い医療の提供に尽力してまいります。

改めまして、出水総合医療センターの創立100周年を心よりお祝い申し上げますとともに、皆さまのますますの御発展と御健勝を祈念いたします。本日は本当におめでとうございます。

## 祝辞

福岡大学病院  
病院長 三浦 伸一郎



ただいま御紹介にあずかりました、福岡大学病院病院長を務めさせていただいております三浦でございます。この度は、出水総合医療センター創立100周年に際し、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

この度の創立100周年、心よりお喜び申し上げます。

出水総合医療センターは基本方針として、地域医療の提供、患者の立場に立った医療、地域完結型医療における基幹病院としての役割を担われております。病院は1925年に創立され、年永きにわたり地域医療に貢献されてきたことに敬意を表します。

福岡大学病院は、2023年に開院50周年を迎えましたが、いまだ出水総合医療センターの半分の歴史しかないことに非常に驚きを隠しえません。私どもも100周年を目指して、地域医療密着型の患者中心の温かい医療を提供していく気持ちを新たにしました。

福岡市から出水市まで遠方のようなのですが、新幹線で1時間10分と非常に近い距離にあります。福岡大学病院からは、2009年から循環器内科の医師を継続して派遣させていただいており、2019年からは常勤医3名体制といたしました。また、私自身が2019年には出水総合医療センター市民講座にて、「学んで予防！動脈硬化と冠動脈疾患」の講演をさせていただきました。会場は満席で、市民の皆様の病気予防に対する意識の高さに感心したことをよく覚えています。更に、最近では、当院から常勤医師を3名派遣し、虚血性心疾患に対する冠動脈形成術のみでなく、末梢動脈疾患に対する形成術や不整脈に対するカテーテル心筋焼灼術を実施させていただいております。2023年の出水総合医療センター循環器内科では、延べ外来患者数約10,000名、延べ入院患者数7,700名と非常に多くの患者さんを診察させていただいております。今後も、出水市の特に循環器医療に少しでも貢献させていただければというふうに考えています。

今後の出水総合医療センターのますますの御発展を祈念しております。

本日は出水総合医療センター創立100周年、誠におめでとうございます。

# 出水総合医療センター

## 写真で振り返る100年の歩みスライド紹介



写真で振り返る

# 出水総合医療センター

# 100年のあゆみ

2025年(令和7年)3月1日

1

### 明治から大正まで

- ▶ 明治23年 中出水村(米ノ津町)の名古地区においてコレラが流行  
患者数100人 死者60人
- ▶ 明治29年 米ノ津川河口に避病舎(隔離病舎)落成
- ▶ 明治43年 米ノ津川河口の避病舎に赤痢(47人)と腸チフス(13人)患者収容
- ▶ 大正12年 中出水村が米ノ津町となる。
- ▶ **大正14年 3月 米ノ津町立米ノ津医院開設**  
5月 米ノ津町立米ノ津医院開院
- ▶ 大正15年 9月 米ノ津町立米ノ津病院に改称

本町に於いて同町医院を設置するは 社会の進運に伴い 町の繁栄を画策し 町民の身体保健増進を図り 一般衛生思想を普及して 以て産業の増進能率の向上を期せんとす

大正14年 開院等に連関申請した際の文書

現存する最古の図面(大正15年)

2

### 昭和25年~昭和31年

- ▶ 昭和25年 7月 医療法改正により米ノ津町立米ノ津診療所に改称
- ▶ 昭和26年 9月 一般病棟を増築し、米ノ津町立米ノ津病院と改称(病床25床)
- ▶ 昭和29年 4月 出水町と合併し市制施行。出水市立病院と改称診療棟、一般病棟を増築し、病床50床となる。
- ▶ 昭和31年 8月 結核病棟を増築し、許可病床数100床となる。(一般50床、結核50床)

昭和41年撮影

昭和26年 罹病時の図面

3

「米ノ津町誌要覧」(昭和20年刊)より

病院正面玄関(昭和30年刊)

母体病棟(50床)(昭和31年建築)

昭和32年 開院3年の建築工事が始まる

4

### 昭和32年~昭和41年

- ▶ 昭和38年 4月 一般病棟が老朽化し、白アリの被害も大きかったため、増改築を計画
- ▶ 昭和41年 3月 増改築工事が完了し、地下1階、地上4階建の施設が完成(病床数150床(一般100床、結核50床))

本館の旧病院はこの敷地内

5

米ノ津橋から望む

ロビー

受付

待合室

6

一般病室

特別病室

手術室

分娩室

7

一般病室

特別病室

手術室

分娩室

8



### 昭和43年～昭和46年

- ▶ 昭和43年 4月 地方公営企業法を一部適用し、地方公営企業会社へ移行  
9月 救急告示病院に指定される
- ▶ 昭和44年 4月 一般病床25床を増床 病床数175床  
(一般125床、結核50床)
- ▶ 昭和46年 4月 一般病床25床を増床 病床数200床  
(一般150床、結核50床)

出太新病院・結核病棟新築 (昭和32年～昭和33年)

上大川内新病院 (昭和46年度)

### 昭和47年～昭和58年

- ▶ 昭和55年4月 結核病棟(木造建築50床)を一般病床に変更  
病床数200床となる
- ▶ 昭和56年9月 増築事業に着手 結核病棟解体
- ▶ 昭和57年1月 増築工事(南館)起工式
- ▶ 昭和57年7月 へき地中核病院の指定を受ける
- ▶ 昭和58年3月 新館(南館)完成 鉄筋地下1階地上4階建  
北陸広域行政事務組合の隔離病棟完成 運営受託

昭和58年通 職員集合写真  
(奥平+和子氏提供)

結核病棟

【診療科】  
内科、小児科、外科  
整形外科、産婦人科  
循環器科、皮膚科  
放射線科

リニアック

集中用ICUスクリーン

検査室

### 昭和59年～平成6年

- ▶ 昭和62年4月 一般病床20床を増床し病床数200床となる。
- ▶ 平成2年5月 全国自治体病院協議会及び全国自治体病院開設者協議会から自治体立優良病院として表彰を受ける。
- ▶ 平成3年11月 増改築工事着工
- ▶ 平成4年5月 自治大臣から自治体立優良病院として表彰を受ける。

表彰状  
自治体立優良病院として表彰

表彰状  
自治体立優良病院として表彰

- ▶ 平成5年3月 増改築第1期工事完成  
新館病棟 地下1階 地上6階建 (9,447.65㎡)
- ▶ 平成6年6月 増改築第2期工事完成  
診療棟・管理棟 地下1階、地上2階建 (5,53.84㎡)
- ▶ 11月 第3期工事完成 旧外来診療棟解体、駐車場整備
- ▶ 平成6年12月 一般病床330床で増床認可、275床で稼動

第1期工事

第2期工事  
第3期工事

手術室

MR I

人工透析室

【診療科】  
内科、循環器科、小児科、外科、整形外科、皮膚科  
産婦人科、放射線科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科  
麻酔科、泌尿器科

【その他の診療施設】  
リハビリテーション、人工透析室、人間ドック(4床)  
産科介護支援事業所、在宅介護支援センター

【職員数】  
医師 33人、看護婦(当時) 173人、薬剤師 13人  
その他 72人、合計 291人

### 平成7年～平成17年

- ▶ 平成7年2月 総合病院名称使用許可
- ▶ 4月 一般病床330床で稼動
- ▶ 平成9年3月 災害拠点病院に指定(地域災害医療センター)
- ▶ 7月 針原地区で大規模な土石流が発生し、21人の貴い命が奪われた。
- ▶ 平成11年4月 第2種感染症指定医療機関に指定、4床認可

針原川土石流災害による負傷者は13人であり、全員が市立病院に運ばれて手当を受け、うち12人が入院した。  
『針原川土石流災害記録誌』より

### 平成18年～平成21年

- ▶ 平成18年3月 出水市、高屋野町、野田町が合併し、新「出水市」が誕生。市町村合併に伴い出水総合医療センターに改称。出水市病院事業は、高屋野医療センター及び野田医療センター（いずれも当時）と合わせた3院体制となる。
- ▶ 5月 南館改築（内視鏡室、外来化学療法室等開設）
- ▶ 平成20年4月 地方公営企業法全部適用。病院事業管理者を設置
- ▶ 6月 回復期リハビリテーション病棟開設（44床）
- ▶ 平成21年4月 隣接病棟を北麓広域行政事務組合から無償譲渡



17

### 平成22年～平成30年

- ▶ 平成24年12月 鹿児島県災害派遣医療チーム（鹿児島DMAT）に指定
- ▶ 平成26年3月 一般病床270床に減床認可
- ▶ 平成28年4月 熊本地震が発生
- ▶ 5月 熊本地震被災地へ災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣



熊本におけるDMATの活動

18

### 平成31年（令和元年）～令和7年

- ▶ 平成31年4月 地域包括ケア病棟を開設
- ▶ 令和2年7月 一般病床を257床に減床認可（病床数 一般257床 感染症4床）
- ▶ 8月 新型コロナウイルス感染症患者を初めて受け入れる
- ▶ 11月 発熱外来を設置（令和6年3月まで）
- ▶ 令和3年4月 院内保育所「ひまわり保育園」を開設
- ▶ 令和7年3月 出水総合医療センター創立100周年を迎える



発熱外来

ひまわり保育園

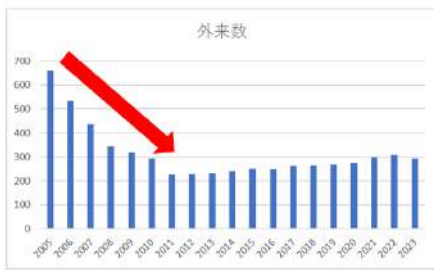
19

### コロナ時の様子



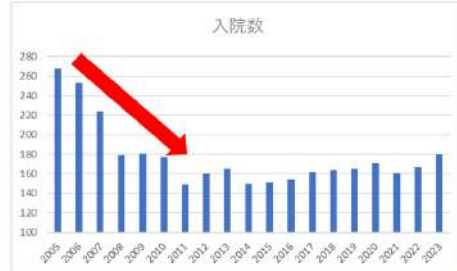
20

### 私が見た現代史（一日外来数）



21

### 私が見た現代史（一日入院数）



22

### 私が目撃した記事



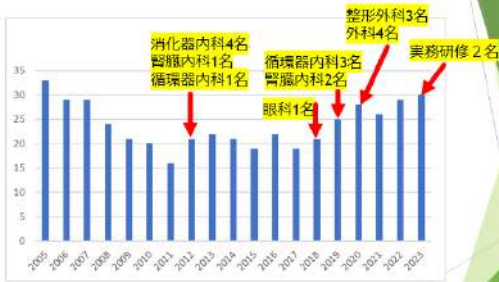
23

### 現代史における医師数変遷



24

## 現代史における医師数変遷



25

## 未来に向けて

やりたい医療ではなく、  
必要とされる医療

持続可能な病院経営

Justice より Fairness



26

## 祝電紹介



出水総合医療センターの創立百周年を心からお慶び申し上げます。

出水総合医療センターは、まだ抗生物質も抗がん剤もない大正十四年三月一日に、米ノ津町立米ノ津医院として開院されました。以来、県内初の公立病院として、二度の大戦や時代の変遷に伴うニーズの変化や新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機を乗り越え、地域の医療福祉、そして住民の皆様の生命と健康を地域全体で守ろうと取り組んでこられたご関係各位に、衷心から感謝申し上げます。深甚なる敬意を表します。

人生100年時代といわれる昨今、医療福祉分野に寄せられる期待はこれまで以上に高まりつつあります。

今後とも、「良質な医療を提供し、市民に信頼される病院」をめざされ、出水市に住み暮らす人々のよりどころとして、さらには、これからの時代の地域医療の良いお手本として、大きくご貢献されますことを心からご期待申し上げます。

出水総合医療センターの今後ますますのご隆盛、並びに、ご出席の皆様のご健康とご多幸をお祈りしお祝いの言葉といたします。

令和七年三月一日  
自由民主党幹事長  
衆議院議員 森山 敏

出水総合医療センター創立百周年記念式典並びに祝賀会のご盛會を心よりお慶び申し上げます。

この度、出水総合医療センターが創立百周年という大変記念すべき年をお迎えになられましたことに心よりお祝い申し上げます。ご案内を頂いておりましたので、本来ならばお目にかかってお祝い申し上げるべきところではございますが、どうしても都合がつかず出席することが叶いませんでした。心よりお詫言申し上げます。

大正十四年の「米ノ津町立米ノ津医院」開院以来、百年間にわたり、地域医療の要となり、地元の皆様により良い、健康と安心を守ってこられた皆様方のこれまでのご労苦、ご尽力に対し衷心より敬意を表します。本日と契機に貴センターがこれからも益々ご発展されますよう祈念申し上げます。ご多幸と心よりお祈りいたします。

元衆議院議長  
衆議院議員 尾辻 秀久

出水総合医療センター創立百周年記念式典並びに祝賀会が、関係者の皆様のご参加のもと開催されますこととお慶び申し上げます。

日頃より、出水市の地域医療の充実に、花田院長はじめ、病院関係者の皆様の尽力されたおかげで、病院長の皆様の支えが、また、歴史の関係をのり、心から敬意を表します。

百年の節目を迎えた出水総合医療センターが、地域医療の拠点として、今後市民生活に貢献することと期待申し上げます。

記念式典のご盛會とご参加の皆様の皆様のご健康と祈念申し上げます。

令和七年三月一日  
衆議院議員 野村 哲郎

本日、「出水総合医療センター創立百周年記念式典・祝賀会」が、盛大に開催されます事を心よりお慶び申し上げます。

大正十四年三月に前身である米ノ津町立米ノ津医院として開院されて以来、地域医療の中核として、多くの皆様の命と健康を支えてこられましたその長い歴史と歩みに、深く感謝と敬意の誠を捧げます。

コロナ禍以降の厳しい医療環境の中、更に人材不足や諸物価の高騰が直撃していますが、国政の場において、少しでも皆様のお役に立てますよう全力で取り組んで参ります。

「出水総合医療センター」の益々のご発展と、お集まりの皆様のご活躍とご健康・ご多幸をご祈念申し上げます。

令和七年三月一日  
衆議院議員 鹿兒島三区  
野間 健

# 記念式典・祝賀会当日の様子

